

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成18年8月31日(2006.8.31)

【公表番号】特表2006-501506(P2006-501506A)

【公表日】平成18年1月12日(2006.1.12)

【年通号数】公開・登録公報2006-002

【出願番号】特願2004-540807(P2004-540807)

【国際特許分類】

G 03 F	7/16	(2006.01)
B 05 D	7/00	(2006.01)
B 05 D	7/24	(2006.01)
B 41 N	1/14	(2006.01)
G 03 F	7/00	(2006.01)
G 03 F	7/004	(2006.01)
G 03 F	7/38	(2006.01)

【F I】

G 03 F	7/16	
B 05 D	7/00	A
B 05 D	7/24	3 0 2 S
B 41 N	1/14	
G 03 F	7/00	5 0 3
G 03 F	7/004	5 0 1
G 03 F	7/004	5 0 5
G 03 F	7/38	5 0 1

【手続補正書】

【提出日】平成18年7月12日(2006.7.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(i) 親水性表面を有するリトグラフ支持体のウェブ提供すること、
 (ii) ウェブの親水性表面上にフェノール樹脂を含んで成る被膜を適用すること、
 (iii) 被覆されたウェブに熱を供給することにより被膜を乾燥すること、
 (iv) ウェブが外界条件下に維持されるであろう速度より高いが30 /秒より高くはない平均冷却速度でウェブ温度が低下される、積極的冷却段階、
 (v) コア上に前駆物質を巻くか、もしくは前駆物質をシートに切断すること、
 の段階を含んで成る感熱性リトグラフ印刷版前駆物質の製法。

【請求項2】

平均冷却速度が20 /秒より高くはない請求項1記載の方法。

【請求項3】

冷却段階の開始時に、ウェブ温度がフェノール樹脂を含んで成る被膜のガラス転移温度、T_gより高く、そして冷却段階中に、ウェブ温度が10 /秒より低い平均冷却速度でT₁からT₂に低下され、ここでT₁はT_gより高く、T₂はT_gより低い請求項1又は2に記載の方法。

【請求項4】

冷却段階中に、ウェブ温度が

- 第1相において、少なくとも10 /秒の平均冷却速度でT1に、
- 第2相において、10 /秒より低い平均冷却速度でT1からT2に、

低下される請求項3に記載の方法。

【請求項5】

冷却段階中に、ウェブ温度が

- 第1相において、少なくとも10 /秒の平均冷却速度でT1に、
- 第2相において、10 /秒より低い平均冷却速度でT1からT2に、そして
- 第3相において、少なくとも10 /秒の平均冷却速度でT2からほぼ外界温度に、

低下される請求項3に記載の方法。